

新型コロナウイルス感染拡大防止に係る学校休業に対応した放課後児童クラブへのアンケートの結果、及びまとめと一考察

大分県放課後児童クラブ連絡協議会

1. 目的(アンケート案内文より)

新型コロナウイルス感染拡大防止のため学校が臨時休業になりました。その間、放課後児童クラブに子どもたちの居場所の提供が求められるようになり、2か月以上の月日が経過しました。これまでに、放課後児童支援員・保護者・子どもたち…それぞれの立場からのきつさを訴える数多くの声を聞いています。

そこで、大分県放課後児童クラブ連絡協議会では、県内の放課後児童クラブ（または育成クラブ等）の今について把握することで、現状を知り改善できる方法を探りたいと考えました。お忙しい中とは思いますが、アンケートへのご協力をお願いします。

2. アンケート対象

大分県内の放課後児童クラブ関係者

(放課後児童支援員、代表者、保護者、行政関係者、その他)

3. アンケート方法

Google アプリを利用して様式を作成。案内文を関係者に配布し、それぞれの立場で実施

- | |
|--|
| <p>① QRコードに、携帯電話等をかざす。②アンケート用紙が、携帯電話に表示。
② 回答を終えたら、「送信」ボタンを押し転送。</p> |
|--|

- ・多忙な時期のため、簡易に回答できる様式の工夫。
- ・集約に時間をかけず、すぐに活用できるように、webを活用。

4. アンケート期間

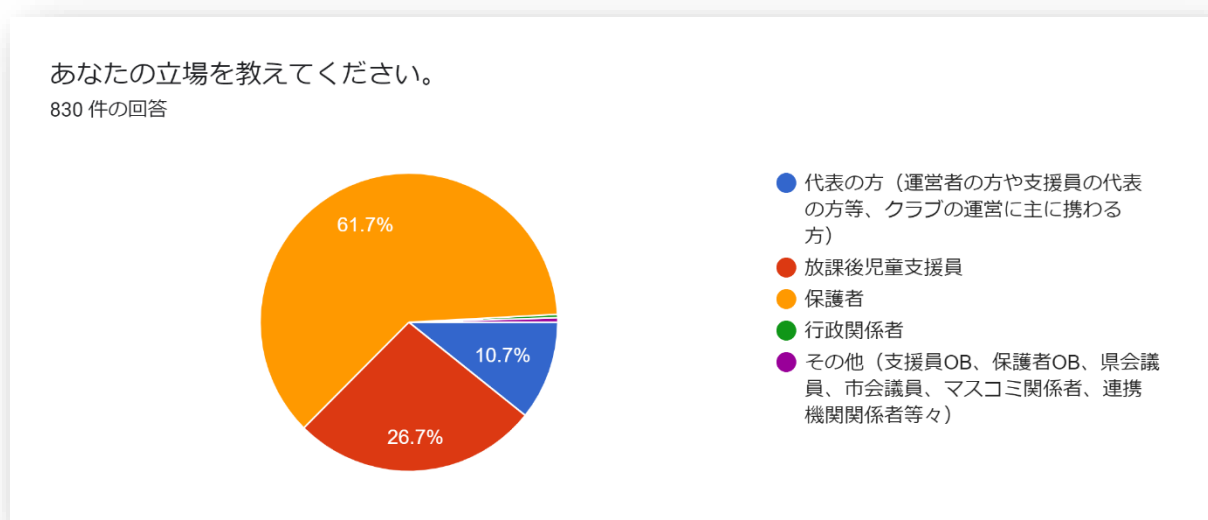
令和2年5月7日(木)～5月17日(日)

(5月の連休後からも、学校休業が継続することが決定された以降)

5. 結果集約、及び項目ごとの一考察

「新型コロナウイルス感染拡大防止に係る学校休業」に対して、放課後児童クラブでは、突然の事態の中での対応が強いられたわけであるが、放課後児童支援員の奮闘、保護者の多大な理解等を力とし、この間、子どもたちの安全と保護者の生活を守り続けた。

そこで、実際の保育現場ではどのような状況であったのか、「クラブ代表者」「放課後児童支援員」「保護者」ごとに質問項目を分け、それぞれの立場からの現状を回答いただいた。回答数は、大分県全体のクラブ関係者のほんの一部ではあるが、今回明らかになった課題は、多くの現場においても共通する課題であると考ええる。そこで課題への各立場からの回答を整理し、放課後児童クラブが今を乗り切るため、そしてこれからにつなげるための本協議会としての思いや考えを述べていく。



(1) 全体的な数字

先にも述べた回答数そのものは、県内関係者総数の一部にすぎないが、「様々な立場の方の思いを聞くことができたこと」「県下各地域からの声を知ることができたこと」は、大分県内のどの地域でも放課後児童クラブの高まりをめざす上で、意義があったと考えている、さらに、多くのクラブの関係者と直接やりとりができたことは、これからの繋がりを広げていくためにも、大変重要であったと考えている。

その中でも特に、保護者からの声を多く聞くことができたことは意義があった。クラブに対して思いをもって関わる保護者の存在は、クラブのそのものの力となる。支援員がアンケートのお願いを保護者に呼びかけたクラブも多く見られたことは、今後のクラブ内の繋がりに加え、クラブ間または地域内における情報共有化にも結びつくことを期待している。また少数だが、行政関係者の意見も寄せられた。放課後児童クラブでは、関係者が相互に連携をとりながら、日々の保育をすすめていくことがなによりも重要であると考ええる。今後の連携についても、活かしていきたいと考える。

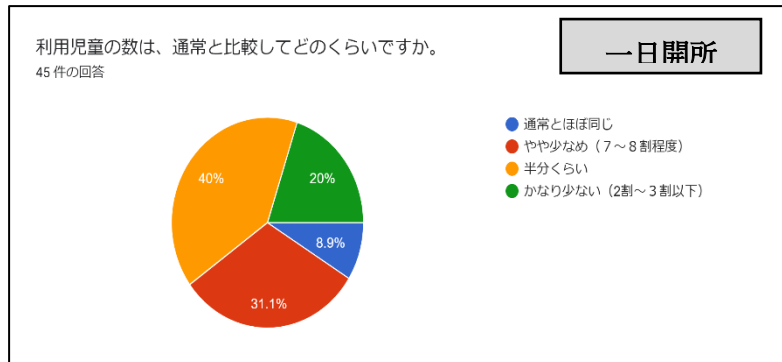
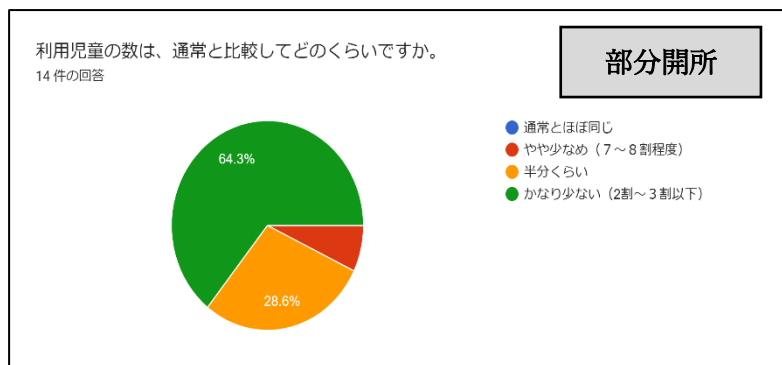
(2) 利用数と開所時間について

利用数と開所時間については、クラブの代表者（運営者だけでなく支援員の代表も含め、クラブの状況を伝えられる方）に、回答を求めた。利用数は、総じて通常と比べて少なく、保護者との連携や預けないことへの理解が幅広く浸透していることが伺える。

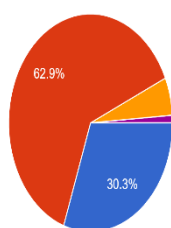
地域によって異なった開所時間についても、言及したいと考える。今回、学校休業に伴い、放課後児童クラブの開所時間は、「一日開所」と「部分開所（学校を部分的に開所した上で、残りの時間帯を開所）」に大きく分けられた。決定にあたっては、各自治体の判断に委ねられ、一部市町村で「部分開所」が行われた（開始時期や時間帯等は異なるが、別府市、佐伯市、中津市、宇佐市、日田市、九重町が実施）。

部分開所をしているクラブは、利用人数が一日開所のクラブと比べてかなり少ないことが示されている。学校利用を認めた自治体では、低学年および必要とされる児童のみが対象であったように、なるべく利用を控えるように訴えた上での制度開始であった。このことが、クラブ利用に関しても同様の意識がをうみ、利用を控えることに繋がったのではないかと考える。クラブが開いているから預けるのではなく、必要だから預けるために、クラブと保護者が連携

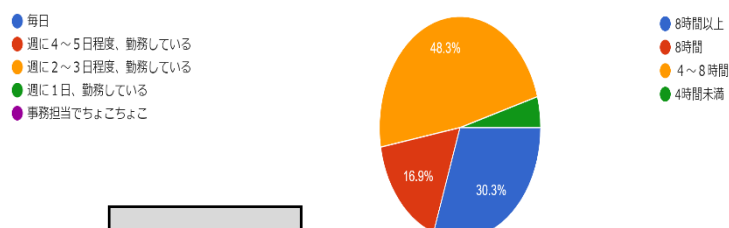
しながら、その運営に模索したクラブもあると聞く。放課後児童クラブが持つ役割とその重要性について、保護者と支援員が日頃から連携して考えていく必要がある。



1週につき何日程度、勤務していますか
89件の回答



一日の勤務時間は、平均するとおおよそ何時間程度ですか？
89件の回答



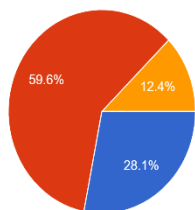
一日開所

開所時間の違いは、支援員の勤務実態にもおおきく影響を及ぼしている。

「一日開所」のクラブの、半数の支援員が「一日8時間または8時間以上」勤務し、3割程度が「ほぼ毎日」働いている現状がある。それに伴い「きつさ」も、利用人数とも関係するが、「これ以上は無理」と訴える声が、4人に1人以上はあることは、今後の支援員としての働き方にも影響するとさえ考える。「一日開所」は長期休暇と同様の扱いであり、「8時間勤務」が前提とされてこなかった放課後児童クラブにおいては、ほぼ通常通りの「部分開所」と

は、支援員の疲労度も異なっていることは、当然の結果である。いざに備えての体制を整備すること（特に支援員の位置づけ）は、今後の放課後児童クラブ作りにあたり、重要な課題であることを、あらためて認識している。

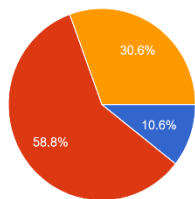
きつさを感じていますか？
89件の回答



- とてもきつく、これ以上続けると苦しい
- きついけど、まだ大丈夫
- きつさはあまり感じていない

一日開所

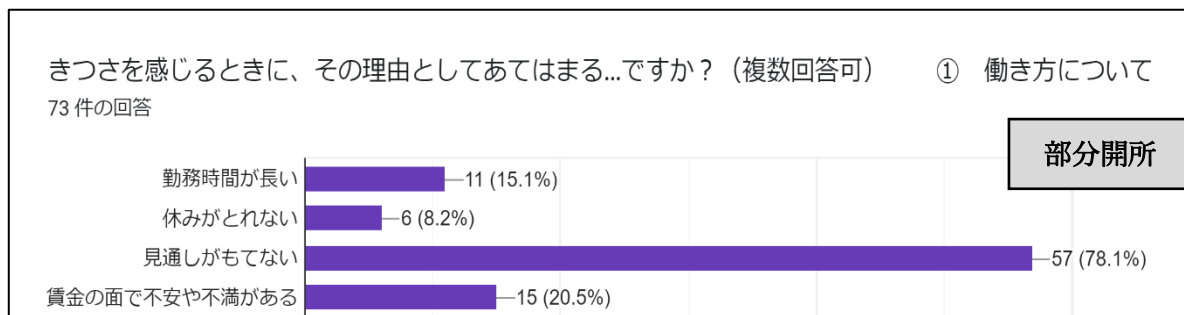
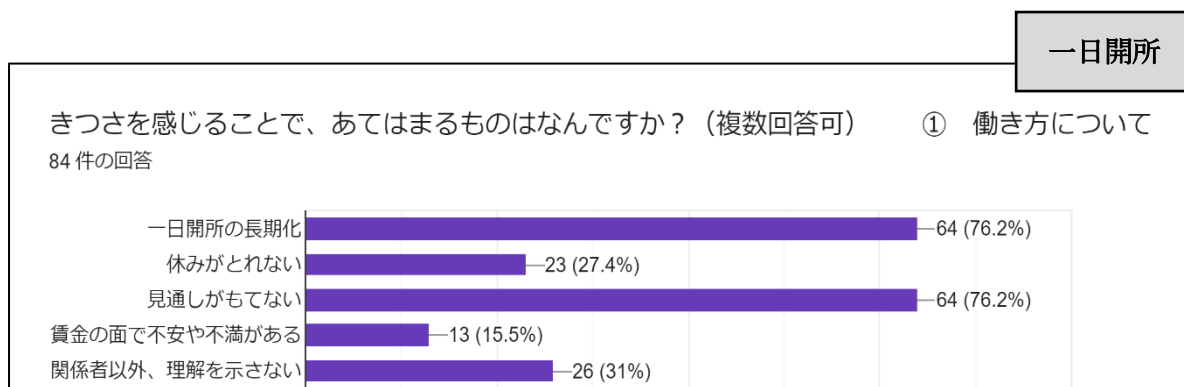
きつさを感じていますか？
85件の回答



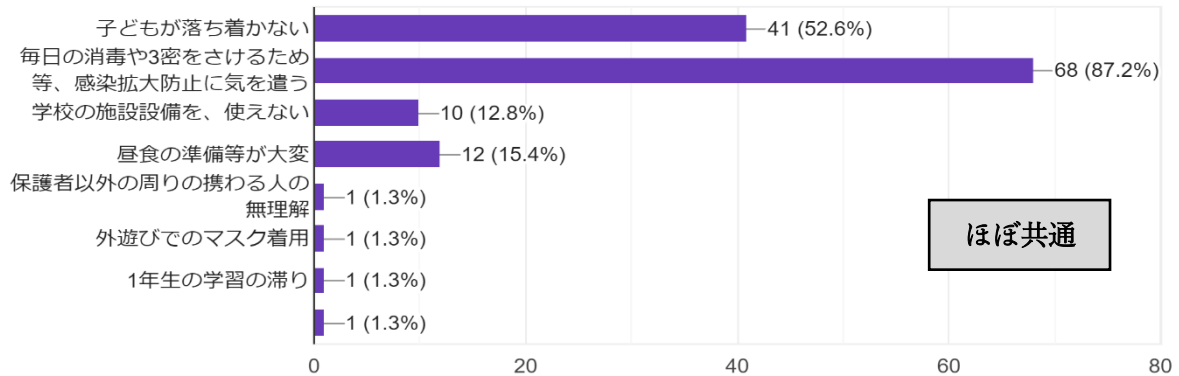
- とてもきつく、これ以上続けると苦しい
- きついけど、まだ大丈夫
- きつさはあまり感じていない

部分開所

(3) 放課後児童支援員の今 ～開所時間、各種連携等から生じるもの～



きつさを感じることで、あてまるもの。(複数回答可) ② 毎日の保育にて
78件の回答



ほぼ共通

<「一日開所」しているクラブにおける支援員の声>

一日開所

<職員の疲労>

- ・万が一感染者等が出て、6月以降も休校と考えるだけでも恐ろしく、肉体的にも精神的にも限界にある支援員が出ている。疲れから、コロナとは関係ない体の不調を訴える支援員も何人もいる。どこかに受け皿が必要なのは理解しているつもりだが、あまりにも丸投げ感があり納得いかない。
- ・毎日朝からの開所なので、やる事が徐々に無くなって来ている。職員が持たない。
- ・月を重ねるごとに 仕事の改革をしてもらっているので体力的に楽に
- ・支援員が誰も体調を崩さなければよいが、誰か一人でも欠けると現状維持が厳しく、一人にかかる負担が増える。感染防止の観点からすれば微熱や風邪症状のある支援員は休むべき。休むことができるだろうか。
- ・GWがあったので体力的に回復できたが、今後は一日開所が続くと不安。
- ・朝からの保育は支援員の確保に大変な負担になっている。 ・精神的肉体的に疲労困憊。
- ・この状態が長く続くのであれば、支援員の確保・支援員の精神状態は辛いものになる。その割に補助金等の支給もないことには不満。政府や厚生省の方々、県や市町村の方々にもっと現実を見てもらいたい。
- ・感染の危険に毎日さらされている支援員の環境をわかってほしい
- ・主任指導員ですが、毎日10時間くらい勤務。家の用事はほとんど不可能
- ・昼休みはあって無い。加配の方には交代勤務をしてもらおうが、主任は結局オーバーワークになる。
- ・保育園に通う子供がいるが、休むことで他の支援員の休みがなくなる。保育園自粛の要請が出ていますが自粛できない。

<感染拡大防止>

- ・緊急事態宣言なので、散歩や近くの公園に行く事も出来ない。
- ・3密を守って子供達と日常生活する事の難しさを日々痛感。
- ・市の図書館等の利用も中には入れないので難しい ・消毒用アルコールがなくて困った。
- ・机を拭く消毒液の不足(今は次亜塩素酸を薄めて使用。手荒れがひどい)
- ・使い捨ての手袋の不足。 ・育成内でコロナ感染者が出ること
- ・分散登校が始まったら定員越えているクラブの密接は避けられない
- ・子どもたちが終日来ているので、職員で掃除をする時間を取るのが大変。長期連休の期間だけでも清掃員さんを雇っていただけると助かるなど感じている。
- ・日々感染に対する不安に押し潰されそう。家族に対する申し訳なさ。
- ・感染リスクを考えると児童も保護者も支援員も不安
- ・学校よりもクラブの方が蜜である。現在分散登校。午後から学校帰りの子どもが来ることでより蜜に。

<子どもの様子>

- ・新一年生は、まだ学童に慣れず、きめ細かい支援をする事がかなり困難。
- ・休校が続いた後に、子ども達がスムーズに学校生活に戻れるのか心配。
- ・長期の休みにより、子供達の体力の低下、学力の低下を感じる。
児童クラブに来所出来ない3～5年生は特に、体力の低下を感じる。
- ・これから暑くなり、子供たちのマスク着用が難しい。

<学校との連携>

- ・学校の先生方が3月は1～2度誰が利用しているか聞きにただで子どもとふれあうこともなく4月は誰も顔を出さない。同じ敷地にいながらこんなものかとがっかりしてしまう
- ・学校が休校になった時に児童クラブの開設を相談なく決められていた。先に相談してほしかった。
- ・低学年の利用者が多いなか「困り」のある子も増え、専門の知識を持たない支援員だけでは間に合わない。学校の先生に多少は関与してもらいたい。

<開所について>

- ・運営面の金銭の心配 ・見通しがたたないことが不安 ・一日開所のこれ以上の長期化は避けて欲しい
- ・今の状況下で本来の利用目的と違う目的で利用される事は支援員にとってストレスでしかない。ましてや「3蜜」をしないで子どもに伝えることは辛い。子どもにとっては当たり前の事を制限する必要。この状況が続く限り、どの支援員も同じ苦悩。
- ・放課後児童クラブでは、朝からの保育は長期休み以外土曜日のみ。
- ・学校が閉所になっても自粛できる人数も限られ、密になるのは当然
- ・休校になったら当然のように育成が朝から開所になることも納得できない。
- ・先が見えず、学校がちゃんと始まるか、またすぐに休校になるのではないかが心配。

<保護者との関係>

- ・宿題や課題を持って来ているが、職員が一人ひとりの子どもについて出来ない。(親は学童での宿題や課題を進めて欲しいと思っている)
- ・自粛を優先してくれている保護者から、学校が始まってからの生活に直ぐに戻れるか心配している。
- ・仕事か分からない保護者がいることも確か。疑心暗鬼を持ちながら仕事を続ける事はとてもストレス。なおかつ私が仕事に行く事で家にいる子ども達への感染リスクが高まり、家へのウイルスを持ちこみが不安。
- ・『クラブは宿題をするところ』『宿題をさせられる』と思われるも困る。児童クラブでも、長期休暇に限りで良いので、"学習面をサポートしますよ！"的なことがオープンにできないか！？と思う。
- ・保護者の理解に温度差がある！
- ・過疎地域で児童クラブを利用出来ない3～5年生の保護者からの苦情など、体力面でも精神面でも、辛い日々
- ・国県市の指示で児童クラブも対応しているが、保護者の方の中では説明をしてもあまり分かって貰えない方もありストレスを感じる。どれが正しいと言えないので、相談もしにくい。

<行政、補助金等>

- ・コロナ対策で支給されている補助金の支給にクラブごとにはばらつき。
- ・行政からしっかり情報を伝え特別手当であれば支給してほしい
- ・全て対応が遅く児童クラブ単独の判断は、許されない事が一番歯痒い。
- ・閉所にともない、協力してくれようとした保護者に対して、勤めている市役所の方に、ハラスメントのような言葉を言われたことに、支援員全員むねをしめつけられる思いだった。
- ・市役所からの連絡等が一方的。学校に変更の連絡はするが、クラブ職員、役員等には連絡がなく勝手に決められる等不満がある。
- ・利用料を普段通りにもらっていいのかが気になる。利用自粛を呼びかけ、それに応じている家庭に、登録しているから…との事で利用料金請求するのは気がひける。市なり県からその分の補てんがほしい。
- ・現場の状況を市担当課の職員の方々がどれだけ理解してくれているのかが疑問。
- ・学校が休校期間中及び、緊急事態宣言後も数える程しか現場には来られませんでした。感染防止の対策等、具体的に一緒に考えて頂きたかった。
- ・市役所子育て支援課から正式な要請があるが、学校や教育委員会からはお願いもお礼の言葉も無いのはなぜ
- ・感染リスクのある中で、医療従事者の子供を受け入れて、医療従事者を支えている。児童クラブの支援員に対しての特別手当を出してもらえるようにしてほしい。

<「部分開所」をしているクラブにおける支援員の声>

<職員の疲労>

- ・先の見通しが立たないこと
- ・支援員の確保。高齢化
- ・賃金が低い。クラブによって時給や手当てに違いがありすぎて今後働いて行くか悩む
- ・見通しが立たないことが子どもも大人も辛い。急な変化、対応が多く身体的疲労より、心が疲弊しているように感じる。

<感染拡大防止>

- ・子供が増えた時の対応3蜜が気になる。
- ・消毒液とペーパータオルの在庫不足
- ・消毒液などを自分たちで用意しなければならない事。
- ・子供との距離や消毒など大変。
- ・感染予防。子ども達を守り支援員自身を守ることの困難さ。
- ・数メートル離れてなんて学童で不可能。除菌、消毒、手洗い、うがい。完璧と言うくらい毎日学童で若い支援員から子育て中母親支援員は頑張っている。もっともっと現場の声を国へ伝えてほしい。
- ・子ども同士の遊びで密接、密集は避けられない。
- ・消毒液がたりない
- ・学童内で過ごす時は、やはりどうしても数人でくっついて遊んでしまう。なかなかマスクをしたがらない。利用自粛をお願いしている現在も平日は、狭い保育室1部屋に30名~40名の児童が利用。どんなに配慮しても密集を避けられない。

<子どもの様子>

- ・クラブによっては、留守番をしている子ども達が食事を摂れていない事が問題に。クラブに来れない子ども達にも、配慮が必要。
- ・先が見えない。顔や様子がわからず休んでいる子たちが、休校明けにどのような感じで来るのかが心配。
- ・午前中は学校に行っている子どもは、クラブを利用出来るが、その他のクラブを利用しない子どもたちはどのような生活をしているのか
- ・利用できていない子の、過ごし方が心配。
- ・グループ活動など、異学年まぜでの遊びなどができないので、遊びや活動に広がりが無い。

<学校との連携>

- ・学校の先生は皆さん知らんぷり。政治関係者の方々、教育者の方々には期待しない。
- ・学校での預かり保育に学校の方も困惑している。始まってみないとわからないが。

<開所について>

- ・夏休みなどがどうなるのか不安。
- ・4年以上の保護者への負担大。学童で預かる方法があれば
- ・学校再開後のクラブの予定等をどうこなしていくかを思案中。
- ・学童も閉鎖してほしい。

<保護者との関係>

- ・保育所等と児童クラブが、同じものだと思っている保護者がいる。
- ・年度始まりだったこともあり、子どもや保護者との繋がり(体制、信頼関係)を作ることが例年より難しいと感じている。
- ・託児所と勘違いしている保護者の方が多い。仕事休みなのに学童へ子どもを預ける。子どもは親が自宅に居ると帰りたがる。支援員にも家族がいて難病有り子どももいる。国の要請があったからではない、本当に学童が必要なお母様の手助けには何の疑問もない。医療現場だけでなく学童での様子、状況もTVその他で放送していただきたい。上司が御父兄、教育現場の関係者へ何度も協力をお願いされて、午後からの預かり、親がいる時は自宅で過ごす等が実行されるようになった。
- ・協力してくれる保護者とそうでない保護者の差が激しい。
- ・想像以上にコロナに対して過剰に反応している保護者の方が多い。そのような不安を抱えた保護者への対応はどのように声掛けなどしてあげたらいいのか…

<行政・補助金について>

- ・分散登校になって子供達が、バラバラに帰ってくる。
- ・分散登校のやり方など早めに教えて欲しい。
- ・勤務時間が増えることにより、賃金が増し収入範囲内に収める事を気にして仕事をしなければいけない。

<その他の連携>

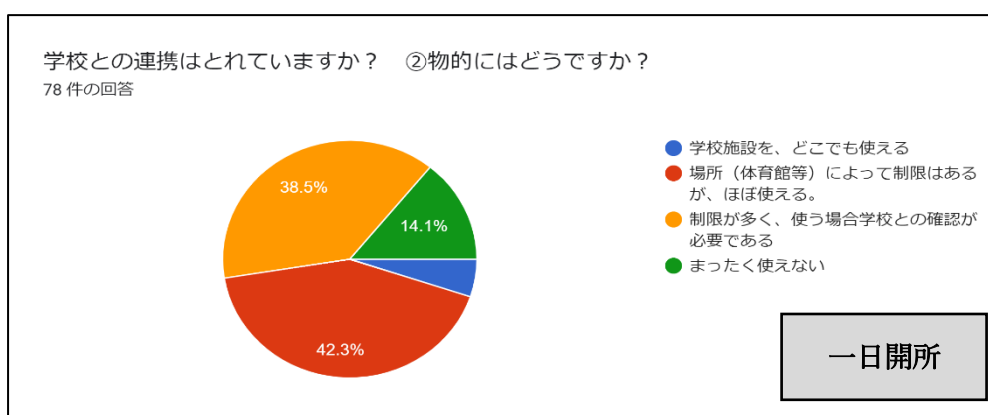
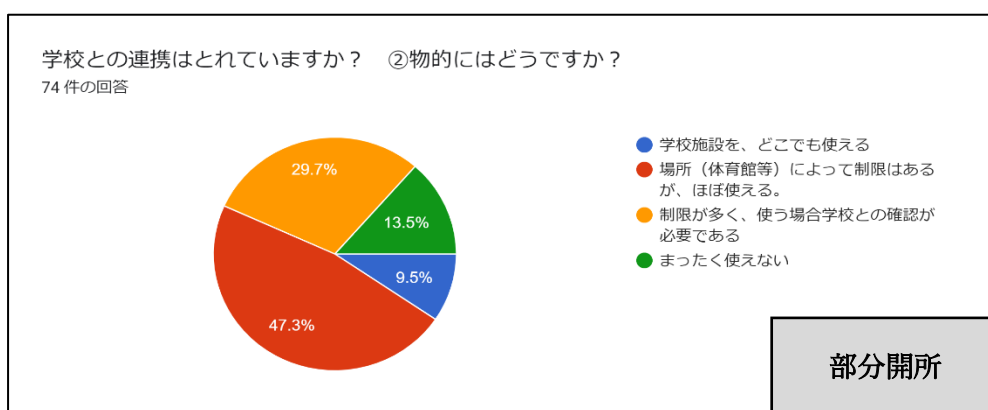
- ・先の見通しが立たないこと、家で過ごす子どもたちが心配なことなど色々あるが、県連協と繋がっていることで情報がもらえるので本当にありがたい。

きつきの具体的な内容については、概ね共通しているが、「各種連携」「感染拡大」等が「長期化」していることへの不安については、「一日開所」のクラブの支援員が強く感じている。「見通しがもてない」まま休みがとれない状況においては、その「きつき」が積み重なっていることは確かであり、そのための対策は急務である。

また「休みがとれない」ことは、「支援員が不足」している現状ともつながる。支援員が「働く場所」として働くことができるように、支援員の勤務時間や処遇等に関する抜本的な考えを、関係者一同が変えていくことが重要である。そのための情報交換や研修制度の充実等が今後さらに必要になっている。

<学校との連携>

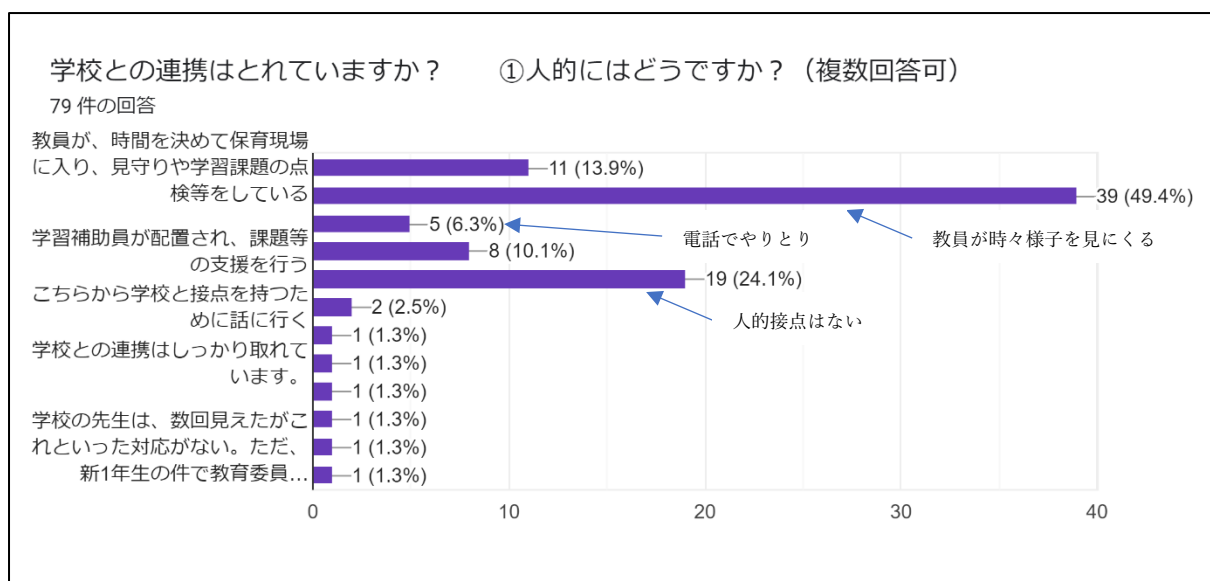
今回のクラブの開所に際しては、学校との連携についても、課題となる事例が多くみられた。



コロナ感染拡大対策に伴う放課後児童クラブの「一日開所」において、大きな課題の一つは、子どもたちの安全を守るために「3密を避ける」ことであり、保護者の生活を守るために安定してクラブ運営を継続させることであった。クラブ当事者だけでなく、学校を始めとした各種機関との連携が重要で、それらを意識して連携を始めるクラブもあった。日々の連携が十分にとれていたクラブにおいては、保育現場が戸惑うことなく、一日開所をスタートしたとの声も聴く。

しかし多くのクラブでは、学校施設の利用を例にとっても、半数以上が使えないまたは利用制

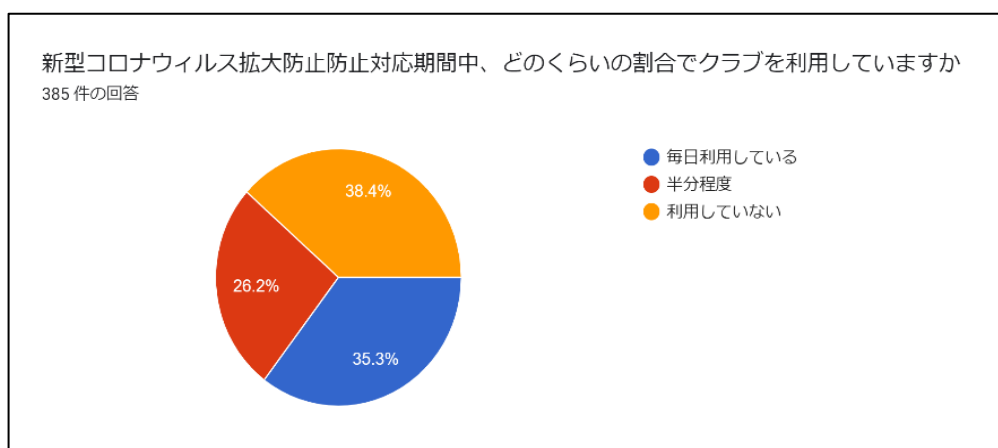
限があるとの回答が示された。きつさの一つに施設利用の制限を上げる支援員もいる。休校時期が延長されることにより、施設開放は少しずつ見られるようになったが、現時点においても使いにくさを訴えるクラブもあり、早急な改善が望まれる。



また、「教員による学習課題の点検」「学習指導補助員の支援」等、学校や教育委員会との連携を実施したクラブは一部地域にとどまり、多くは学校との距離感を改めて再認識したと考えられる。「学校・教育委員会」と「クラブ・担当課」との連携については、現場や市町村では解決しにくい現状も見られ、国や県レベルでの解決策の提案が望まれる。

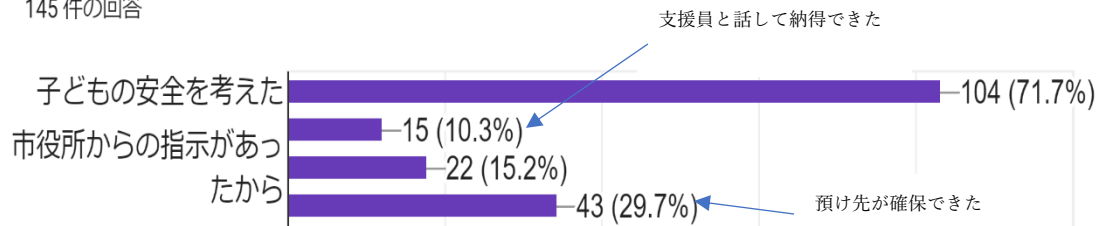
(4)保護者の思いとして

保護者との関係性が、クラブを運営していく上で特に重要である。十分な補助がなく、各種機関との連携が限定されている放課後児童クラブでは、関係者一同が連携しながら活動をすすめていくことが基本になると考える。中でも、子育てを共に考える上で一番大切な保護者との関係性は、日ごろからの密なやりとりを積み重ねながら、創り上げていく必要がある。今回のように緊急時には、創り上げてきた力が特に必要とされる。



クラブを利用していない理由を、教えてください（複数回答可）

145件の回答



<支援員に対して>

- ・支援員が夏休み以上に1日開所をしていてくれるが、人員が少ないのでちゃんと休みが取れているのかとても心配。
- ・支援員さんの勤務状況、コロナ対策への心労が心配。
- ・充分気をつけてもらえていると思う
- ・誰もが不安な時期。対策も考え実行されている先生方のご苦労がはかりしれない。
- ・柔軟な対応をして頂きありがとうございます!!
- ・休校中も朝から開けて頂いて助かる。
- ・支援員さんたちの負担が重くなって、疲れていないか、ストレスがたまっていないか不安。
- ・支援員の先生方には、お礼しかない。
- ・文句を言う保護者の心理がわからない。
- ・こまめに連絡を頂いているし、うちの子は高学年で行けないのは仕方ないですが、学童の先生方もこのような時に大変だと思う。低学年さんの保護者の方にとってはありがたいと思う。
- ・支援員さんが体調を崩さないか心配。

<子どもに対して>

- ・1年生で入ったばかりなので学校が始まって利用するようになった時友達の輪に入れるか心配。
- ・外遊びをさせない環境になっていて、春休みも、新1年生は1度も外に出させていない。わが子は1年生なので、今回は私の仕事場に連れてきてなんとか乗り切ったが…。こどもの心身の健康のために、毎日外に出ることができる手助けをしてほしい。

<感染症対策について>

- ・部屋がかなり狭いので、学校内など預かってもらいたいが、三密の防げる場所を提供してもらいたい。
- ・どのような感染対策がなされるか。教室が子供の数に対して狭いと思う。3密を防ぐのは困難と思う。
- ・消毒液類の不足 ・感染予防のために頑張っていると思う。
- ・クラブも分散利用ができないものかと、思った。現時点でのクラブの利用者数が知りたい。
- ・学校同様、感染予防とは言え、これから暑くなるのに対して、マスクをしなければならないのが、逆に息苦しさや熱中症などの心配がある。

<利用について>

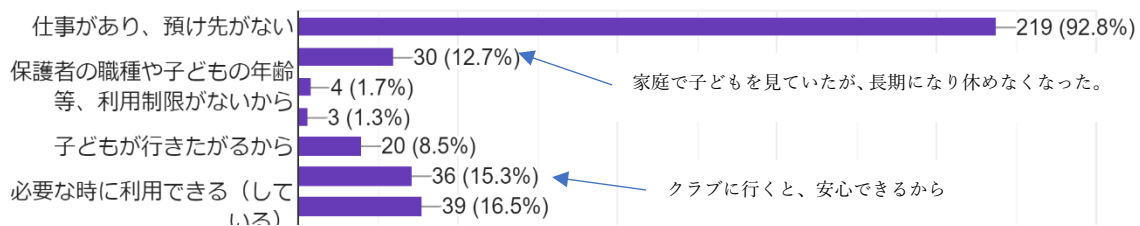
- ・一年間は途中退会ができないのがなぜかよくわからない ・利用料の事だけで他は気になっていません。

<行政に対して>

- ・市に対して、高学年と言うことで利用が出来なかった。何らかの形で利用させて頂きたかった。
- ・アンケートやお知らせの対応が他の園より遅すぎる
- ・コロナが出ていない市は、一日も早く学校生活が送られるようにして頂きたい!!
- ・対応が遅いときがあると思った

クラブを利用している理由を教えてください（複数回答可）

236 件の回答



<支援員に対して>

- ・医療関係者ですが、「今頑張ってくれているお母さんを支えていきたいので、利用をお断りすることはありません」と言ってもらい、感謝しかない。このような状況の中、育成クラブを開設していただいて本当に助かっている。先生方に負担がいきすぎているか不安。
- ・返金に応じる為に、現場の指導員の仕事量が増えることが想像でき、申し訳ない。
- ・クラブの指導員の皆様には、このような中、子供を預かって下さり感謝しかない。
- ・先生方の負担を考えると預けるのも気が引けるが、仕事が始まると預かって頂けるのはとても助かる。国、県、市がもっと連携を取り児童クラブが運営できるとよい。
- ・毎度、感謝しかありません。
- ・コロナウィルスでの自粛があるまでは不安もなく私も子どもたちも放課後の居場所として本当に良くしていただいて支援員の方には感謝している。観光地でもあるこの場所は歩いて帰らせるのも留守番させるのも、夏休みの居場所としても子どもが安心、安全に過ごせる場所がなく、それが児童クラブの待機へと繋がっている。町ぐるみ、地域ぐるみで未来ある子供たちの居場所づくりとしてクラブがもっと円滑まわりにまた地域の方に理解頂けるようになればいいなと感じる。
- ・コロナウィルスで不安な毎日ですが、支援員の方たちの対応にはほんとうに感謝しかありません。また、同じクラブにいかせる保護者の方の協力もあって3蜜にならずにすんでいるので、1日も早い収束と、生活がもとに戻ってクラブに通わせたい。クラブにいきたいと子供は言っている。
- ・児童クラブがあることで、先生方にも優しく接していただき、とても助かっている。子供も、とても、楽しそうに、喜んでいるので、そのまま継続してほしいです。閉校になるのが、心配。
- ・いつも丁寧に対応して頂いているので特に無い。
- ・先生たちの負担が大きくないか心配。県や市から少しでも先生達への給料等上げてもらえる嬉しいありません。十分していただいています。
- ・預かっていただけるだけでありがたいので特にない。
- ・いつもより利用させていただいているので、返金より多く支払っても良いと思っている。支援員の方には本当に感謝している。
- ・利用している学童は、子ども一人ひとりに向き合ってくれ、先生方のきめ細やかな指導や親のような優しさをもって受け入れてくださり、安心して仕事に行ける。
- ・このご時世、先生方の毎日の大変さを考えると利用するのが申し訳なく感じるが、それでもいつも笑顔で迎えてくれる先生方に日々感謝している。
- ・支援員さんのお忙しさが心配。2ヶ月ほど朝から子供達を見ていただいて本当に大変だろうと思う。出来る限り休ませることができませんが、本当に毎日感謝している。
- ・育成の支援員の体調や精神的な負担が気になります。
- ・毎朝仕事を遅刻して出勤している状態で、クラブがありとても助かっている。なかなか仕事が休めず先生達にご迷惑をおかけしているが今後も続けてお願いしたい。
- ・支援員の負担が大きいと思うので申し訳ない。週に一度でも完全に閉めてもらえたら、職場に預け先がないからという理由で休むことができる。開所では職場に休みをもらいにくい。支援員さん、保護者双方の負担を減らしたい。
- ・先生たちの疲労が気になった。

<支援員に対して>

- ・登校時間が幼稚園の時と同じで、一年生の自覚も薄いため、正式に授業再開されたときクラブに行くのがしんどいと思うかもしれない。先生方に負担が大きいのしかかり、体調面や仕事量の増加がある。
- ・医療系の仕事で休めないため、仕事がある日はお世話になっている。私たち保護者もですが、育成の先生方も長期長時間労働を強いられているため、先生方の体調等も気になりなる。学校の決定が主になっている現状では、仕事がない時は利用しない等、先生方も無理せずお仕事できるようにしていきたい。

<子どもの様子>

- ・学校の時間が減っている。児童クラブでの学習時間を増やしてほしい。
- ・コロナによる自粛要請の期間中、親の仕事によってはずっと通わないといけなかった子ども達のストレスが気になっていた。指導員の先生方もストレスが凄かったのでは？
- ・好きなように遊べない、おしゃべりも制限される中、子供達の心のケアはどうなっているのかが心配。自分の子は、自粛要請の期間中2週間程休ませた。少しずつ通い始めると、逆に嫌になってしまったようどうしたらいいのかと気分が落ち込みます。
- ・子供達の心のケアはどうなっているのかが気になる。
- ・遊びの場となっているので、学習の時間も設けて欲しい。
- ・先生方には、大変な時期に子どもたちを預かってもらい、大変助かります。

<利用について>

- ・クラブを利用させていただき、仕事が成り立っている。コロナでどのような状況になろうとも、休職できる職種ではないので。クラブが閉所しないことを祈る気持ち。
- ・開所のクラブがほとんどですが、万が一感染者がでた場合は、閉所の期間があるので、預ける時間をもう少し長くしてほしい。
- ・少し料金が高いので。もう千円でも安かったら生活に余裕が出るので検討してもらいたい
- ・新1年生を留守番させるは心配。放課後児童クラブには、とにかく助かっている。
- ・工作上、絶対に無くなったら困るが、今の時期何となく預けるのに気が引ける。保護者の状態も大切だが、先生の立場も私達とおなじだと思う。ただ感染予防で行かせてない児童にしてみたら不満が出ると思うので(特に金銭面)早く方針を示し各家庭に選択させるべき
- ・さらに感染が進んでしまい、クラブが利用できなくなってしまうのではないかと不安
- ・支援員さんの負担(急なシフト組み、人員不足等)を考えると申し訳ないと思うが、仕事は通常通り育成にお願いせざるを得ない状況。支援員さんがキャパオーバーな状態での開所はトラブルも起きやすくなるので、少しでもそのような状況であれば、いっそ閉所としてほしい。「育成が休みで預け先がない」と職場に言える。
- ・自粛はしたいが病院勤務で休みがとりにくい。4年と幼稚園ですが、留守番させるにはフルタイムでは厳しいのでお願いしています。このまま利用させてもらえるとありがたい。
- ・自粛中いくらかかるか気になる ・預ける側としては、保育料。
- ・もし、可能であれば、学童の開始時間を、自粛中だけ早めてほしい。
- ・感染が確認された後、利用出来なくなるのが心配
- ・朝から仕事があるため朝の学校の預りの時間を8時より早く出来るようにしていただきたい。
- ・市内で発生した場合預け先がないが、職業柄休める状況ではない。職業柄を優先して学童クラブは継続を
- ・指導員から言われないが、医療や介護の従事者の子供を預かりたくないと思われていないか、少し不安に
- ・学童が閉鎖になった時が不安。 ・感染者が出たときに、学校もクラブも一斉に閉鎖になることが不安。
- ・自粛中は休むのが善で預けるのは悪というムードになっていてつらい。医療従事者でなくても、休めない仕事はたくさんある。
- ・子供の近親者にコロナ発症者が出た場合、クラブを利用出来るのかが気になる。
- ・できる限り自粛協力したいが仕事が休めない。預けているのを責められるような雰囲気辛い。
- ・説明会が中止になったので、クラブがどういう仕組みなのかわからない。
- ・保護者兼医療関係者。医療関係者、児童クラブの方ともに仕事を休めない状況は同じ。スタッフの人数に余裕があれば2週間交代勤務等の考慮ができれば、体力、メンタル的に疲労困憊するのを少しでも防げる
- ・追加の料金を払っても構わないので昼食の準備してほしい。
- ・支援員さんの負担増により、利用制限をかけられたら困る
- ・時間短縮をされるのが1番困る。

<感染症対策について>

- ・三密の状態になりやすい。注意しても子供はくっついてくるので。
- ・マスクをしていない子が多すぎる。仕事が医療関係なため、感染が怖い。この状況で育成を利用するならマスク必須にしてほしい。
- ・3密防止などに心をくだいていただいているので、気になることはない。
- ・緊急事態宣言が解除されると、預ける人数が増えてかなりの3密状態になるのではと不安になる。

<行政に対して>

- ・もし、閉所した場合、パートの先生達の給料保証を国に請求するのは、誰がするの？保護者運営の場合は、役員さん達で、しなければならないのか？
- ・保護者運営には限界がある。保護者・支援員それぞれが無理をして、結果的にいい方向に向かわないように思う。適切に行政に運営して頂きたい。
- ・利用者、利用希望者が増えて支援員さんの負担が大きい。もっと協力したいが仕事のため出来ないのが現状。また、利用者数の増加により、現在の建物では手狭になっているよう。子供たちがもっと広い場所ですっきりと過ごせる環境が出来ることを願う。

「子どもの生活の安全を守りながら、保護者の生活を守る」ことは、放課後児童クラブの基本である。しかし、これまでの感染症流行時、自然災害時等、学校休校時には閉所とすることを原則としてきた中、現状を論ずる間もなくクラブの開所が始まった。急な事態の中で、利用者数については通常通りも予想され、クラブで過ごすことこそ危険になるのではないかと、疑問に感じる保護者や支援員の声も多く聞かれた。

その中でも、クラブや行政の関係者と保護者が連携をとり、なるべく利用を控えることを訴えた結果、利用数についてはおおむね少なく推移した。預ける場合も、「仕事が休めない」「預け先がない」ことが主な理由で、どうしても預ける場合の心苦しさを訴える声が多く聞かれている。クラブの安全面や支援員のきつさについては、保護者も理解し、協力できることには積極的に取り組んでいることを感じた。

通常と異なる環境の中、だれもがなんらかのストレスを感じるため、それぞれの立場を理解しがたい場合もあると思うが、保護者からは支援員への感謝の声が多くあげられている。先述したが、クラブは保護者と支援員が手をつなぎあうことが何よりも大切であると考えている。今回、連携しながら各種課題を解決するために取り組んだ思いを、これからの保育にも活かすことが大切であると考えている。

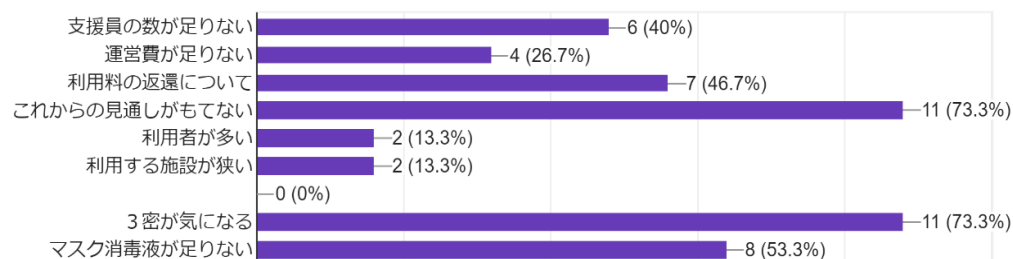
(5)運営する上での困り

今回のアンケートでは、現場の多忙化も考慮しクラブの現状を把握している方（運営上の責任者だけでなく支援員の代表等）1名を代表として、回答いただいた。大分県内では多数を占める「地域運営委員会方式」で日々の保育運営に取り組む厳しさ・大変さが、如実に現れたことについても、以下示していく。大きく開所時間ごとに分けて示す。

<「一日開所」のクラブの代表者の声>

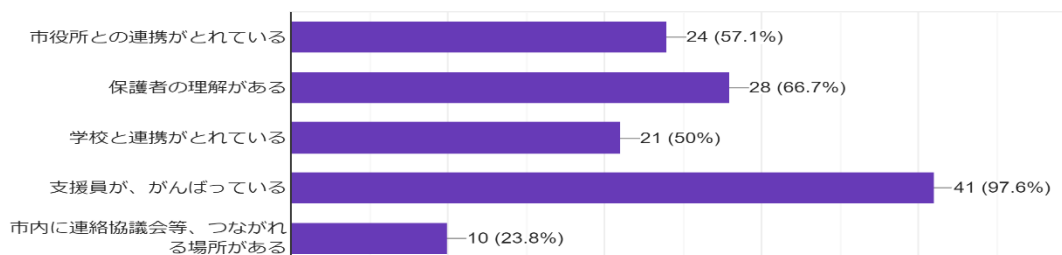
運営上、困っていることを教えてください（複数回答可）

15件の回答



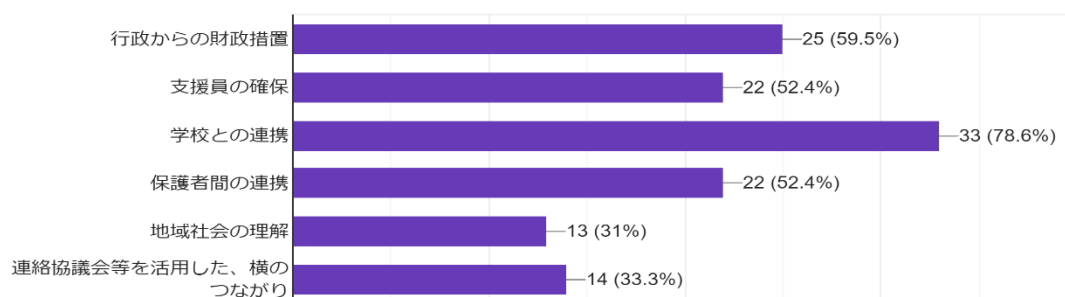
運営にあたって、助かっていることはありますか（複数回答可）

42件の回答



今後も、現在の状況が続く場合、必要と思われることはありますか？（複数選択可）

42件の回答



支援員の働き方について気になることはありますか？（複数回答可）

45件の回答

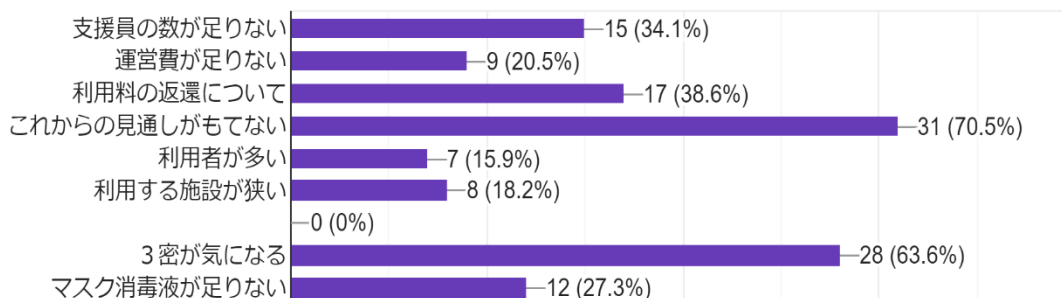


- ・クラブの登録を継続するのが難しいご家庭が出てくるのでは？
- ・自粛協力してくれている家庭の子どもたち、保護者の支援のあり方
- ・市役所の決定がギリギリで、保護者に未だに説明ができない
- ・感染拡大防止のための休校に対して、児童クラブは開所せよとの理由が不明。子供の命よりも大事な保護者の仕事はあり得ない。職場に協力してもらおう体制を整えるべき。
- ・行政の言う通りにしかできない現状がある。各自治体が独自で責任を持ってしっかり考えるべき
- ・学校側の情報が遅すぎる。宿題が少ないので新たに準備するのが大変。
- ・こんな状況の中で保護者が休みでもクラブに登所させる保護者がいる。
- ・緊急での預かりの時は新たに就労証明をとった方が良いのかと思う事もある。
- ・利用料返金についての対応をどのようにしたらよいか、説明する為の案内文書が要。
- ・施設利用を自粛している児童への利用料金の返金を市役所から指示日割り計算を個々に計算しなければならなくて会計事務が煩雑
- ・日割りの必要があるのか？返金すれば、オヤツ代等のやりくりが大変になる。
- ・先が見えないのが一番の不安。今後学校が再開されて後の育成クラブがどんな勤務体制になっていくのか、何を求められてくるのか…放課後と長期休業中の子どもたちの生活の支援ということで取り組んできた。それ以上のことを求められるのはとてもきつい。子どもたちの居場所作りも育成クラブだけをあてにするのは間違っているのではないか。行政としても検討する課題ではないか。
- ・開いてと言いつ放すだけでは現場の支援員の困りや大変さを理解しているとは思えない。
- ・支援員が扶養に入っているので、働きたくても働けない時間の制限がある。
- ・感染の危険性がある仕事なので、危険手当や慰労金を出すべき
- ・先が見えないことによる支援員のメンタル面と体力面が子どもたちに影響しないかが心配。子どもたちは元気でマスクもずれるし、子ども同士くっつくが、それをストレスフルに対応しないよう注視している。休校中の午前中の人件費を入れてくれたが、最終的に年度決算でお金が余れば、その残金で精算。事務仕事が増えただけ。
- ・クラブによって預かり制限が異なるのはおかしい。(医療従事者以外は利用しないように厳しくいっているところもあると聞いた)
- ・疫病だけでなく災害時に備え、利用基準を市がきちんとした基準を作っておくべき。

<「部分開所」のクラブの代表者の声>

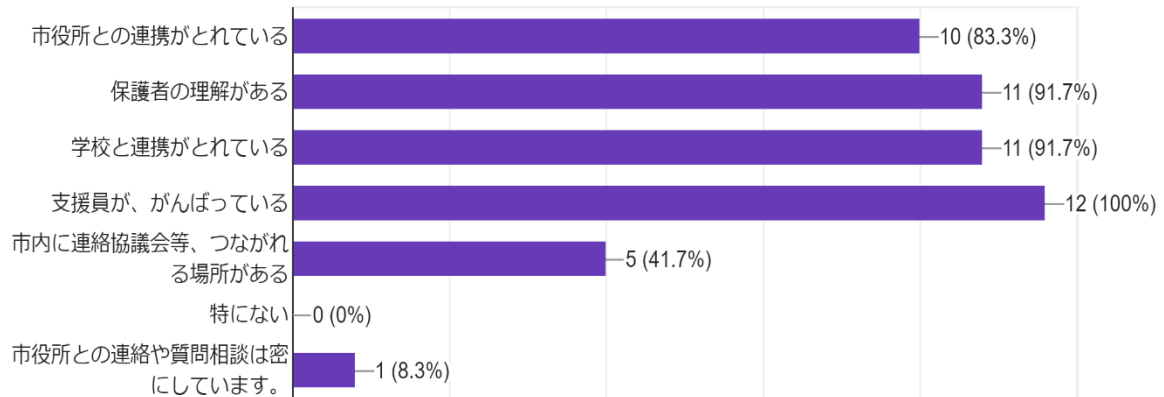
運営上、困っていることを教えてください（複数回答可）

44件の回答



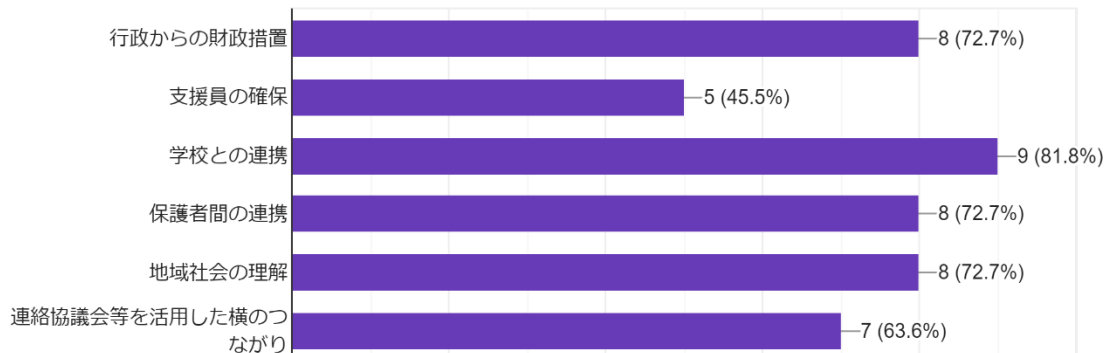
運営にあたって、助かっていることはありますか（複数回答可）

12件の回答



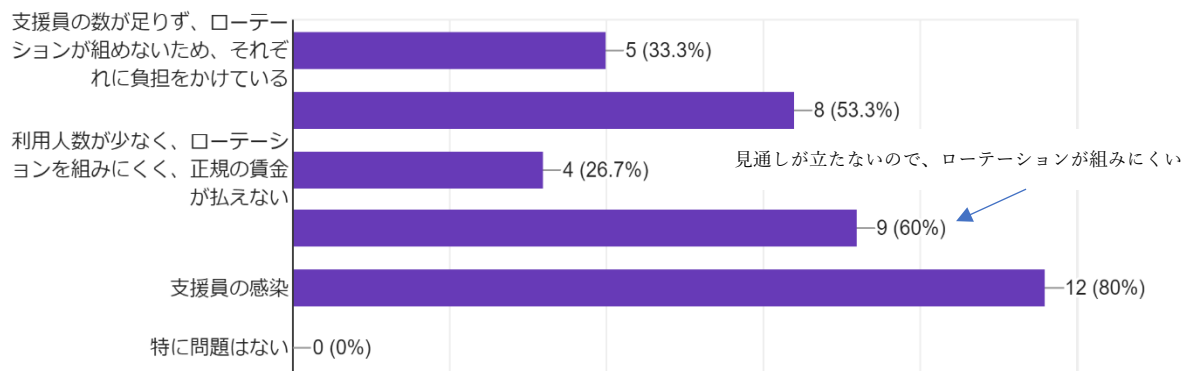
今後も、現在の状況が続く場合、必要と思われることはありますか？（複数選択可）

11件の回答



支援員の働き方について気になることはありますか？（複数回答可）

15件の回答



- ・感染により閉所を余儀なくされた場合、今年度は委託料の変更はないと聞いているが、保護者の失業等により利用人数が減少、それに伴い委託料の減額などになった場合、先行きとても不安。
- ・手指消毒液が不足している。
- ・普段は月に一回の連絡協議会の研修でみんなが顔を合わせるので、他のクラブの状況を知り市との連携がとりやすいが、いまは会うことができないので情報が偏ってしまう。オンライン会議等がニュースでたくさん取り上げられているが、インターネット環境のない児童クラブが多く、インターネット環境を整備した時の月々の通信費が心配なようだ。
- ・保育の停滞や空白化。マスク着用の長期的なこどもへの影響。市役所の担当部署も、どこもかしこもコロナ対策が第一優先になっており、個別配慮など福祉としての側面が忘れられてしまっている点。

運営上の課題は多岐にわたることが示されている。

「行政機関との連携」「学校とのやりとり」「保護者からの申し入れ」「支援員への気遣いや調整」「支援員の確保」等。そのどれもが重要であり、一保護者が担うには、その責務が大きすぎるクラブがあることは、大きな課題として改めて浮き彫りにされていると感じる。

厳しい中でも前向きに課題に向き合う代表の方の思いは、子どもたちの安全な生活を守ることにもつながっている。しかし課題は、多くの関係者の連携があり始めて解決に向くことは述べるまでもないことであり、多くの連携を求めている代表者の声が、それらの大切さを表現している。大分県内でもたびたび話題にされる「運営の在り方」について、改めて県の指針を市町村においても重要事項としてとりあげ、関係者一同が一致協力して、今を乗り越えこれからのクラブを作り上げる必要があると考える。

6. お礼もかねて、さいごに

放課後児童クラブの関係者のみなさま。今回のアンケート調査に対して、ご多忙の中ご協力いただき大変ありがとうございました。多くの声を集めることができました。

保育現場が現在抱える多くの悩み・・・「支援員のふんばり」「子どもたちのきつき」「運営上の厳しさ」「保護者の苦しい思い」等が、アンケート結果から明確に示されました。

これらは、これまで放課後児童クラブがずっと抱えてきた問題そのものです。問題の解決には、何度も述べてきましたが、「連携すること」がとにかく大切です。コロナウィルス感染拡大の早い終息を望みますが、見通しはまだもてません。だからこそ、今を乗り切るために、私たち関係者一同つながっていきましょう！そして、今つながることは、これからの放課後児童クラブのさらなる高まりに、必ずつながっていくと信じています。

私たち、大分県放課後児童クラブ連絡協議会では、「つながり」を求めて、日々取り組みをすすめています。今後も、みなさんの声を聴きながら一步一步、あゆみをすすめていこうと思っています。

ご協力、ほんとにありがとうございました。今後どうぞ、よろしくお願ひします。

大分県放課後児童クラブ連絡協議会